令和２（2020）年 12 月 11 日（金）

マレーシア大使館講演会を実施しました！

12 月 11 日（金）、マレーシア大使館より、タンゲスワリー・パレスワラン（Thangeswary Paleswaran）一等書記官（First Secretary）をお迎えし、新型コロナウイルス感染防止対策を取った上で本校体育館にて講演会を実施しました。マレーシア観光紹介のビデオが流れる中、体育館の生徒達は拍手で一等書記官をお迎えしました。

【 講演会内容 】

マレーシアとは→マレーシア独立から今日までの歴史、1957 独立～1970 までは農業、1970～1990 は建設業、1990～2000 は工業、そして今日ではハイテク産業を基幹産業とし発展してきた。他民族国家であること、経済状況についての説明。

日本との関係→マレーシアにとっては中国、シンガポール、アメリカに続く第４位の貿易相手国であること。日本との外交は 1957 独立直後から今日まで続いていること。2015～日本とマレーシアは両国関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げし、さらなる結びつきを強めていること。

マレーシア大使館の役割→日本政府（外務省）との窓口であり、10,000 人もの在住マレーシア人（うち留学生 3,000 人）の出入国フォローや、日本での生活の橋渡し役など。特に新型コロナウイルス問題が起こってからは、ASEAN10 か国と連携し、各国対応など連絡調整を図り、様々な問題解決にあたっている。

換気×間隔　講演会の様子

講演会の最後には、タンゲス一等書記官よりマレーシアのポップソングである「ラサ・サヤン」の紹介がありました。８名の生徒からの英語による質問にも、丁寧に答えていただきました。また、マレーシアの人々の間で、日本のアニメ「ナルト」が有名であるというエピソードに、驚きと親しみが一層わきました。生徒もまた、真摯にお答えくださるタンゲス一等書記官とのやりとりに自信をつけた様子でした。

同時に、秘書の方に通訳をしていただきながらも、全編英語で行われた講演会は、私たちにとって、「生きたリスニング学習の場」でもありました。事後に講演内容を確認する生徒もおり、英語学習のモチベーションアップにもつながりました。

無言×笑顔×一瞬　質問者と共に

【 生徒の感想 】

◆マレーシアと日本の外交関係やマレーシアの文化が色々な面を持っていると知ることができ、とても新鮮でした。受験やコロナ収束後にぜひ行って見たいと思います。全クラスの前で英語で質問するのはとても緊張しましたが、無事に終わって良かったです。今回は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

◆マレーシアと日本が親密に関わっていることを知り驚きました。セパンインターナショナルサーキットはとても美しいサーキットなので、マレーシアに旅行に行った際に訪れてみたいです！

◆僕は今回のマレーシア大使館交流を終えてとても有意義な時間を過ごせたと思います。コロナによって、いろいろな行事がなくなってしまい、心が閉鎖的になっていました。しかし、大使館の方がとても陽気な雰囲気で、沈んでいた心が一気に晴れたような気分になりました。マレーシアの民謡を歌ったことが印象に残っています。大使館の方に、「あなたは一番大きな声で歌っていたわ！」と言われるくらい、とても楽しい時間を過ごすことができました。

テリマカシ（Thank you）！タンゲス一等書記官、大使館の皆さま、本日はありがとうございました。

２学年　英語科・担任

マレーシア大使館の方をお招きして、異文化に対する理解を深めることができました。日本と異なる政治・文化・宗教的背景で暮らす人々の存在を身近に感じ、日本やその他の国との間で、相互に協力しながら生活していることを再認識できたと思います。また、お互いに第二外国語である英語を介して意思疎通できることを実感し、実践的な英語力を身に着ける動機付けにもなったと思います。